東京能楽囃子科協議会
十二月昼能

狂言での神楽と能の惣神楽が聴ける貴重な一日

「芦刈」
夫（日下左衛門）が没落し、別れてしまった夫婦が再び連れ添うことを決める物語。左衛門が言葉巧みに芦を売り捌く様を表した「笠之段」は仕舞でよく演じられますが、舞囃子では曲の最後、男舞を舞って二人で都に旅立つ場面を演じます。

「昭君」
政略結婚で胡国に嫁がされ、現地で亡くなった美女「昭君」。両親が一目姿を見たいと鏡に祈ると昭君と夫の韓邪将も現れます。鬼のような姿となった韓邪将は自分の姿を恥じ消えて行きます。

「乱」
「猩々」では、中之舞を「乱」という舞に替える場合、曲名そのものを「乱」とします（流儀により「猩々乱」）。足遣いなどに特殊な型があり、囃子も強い緩急で技術的に大変難しいものとなります。「舞金剛」と称される華やかな金剛流の「乱」をご鑑賞ください。

「鳥追舟」
離れて暮らす夫を想いながら、母子が舟に乗って田を荒らす鳥たちを追い払う場面を謡と小鼓で表現します。

「石神」
笛と小鼓だけの編成で神楽が入ります。このあとの能「巻絹」にも神楽の囃子が入りますが、笛の譜は全く異なる一方で、小鼓はシンプルな手を繰り返す点は能の神楽と共通しています。狂言と能、二つの神楽の違いをお楽しみください。

「巻絹」
絹を納めるのが遅れた罪で縛られた男が、和歌の徳により許されます。巫女が現れ静かに神楽を舞い始め、やがて激しい舞となっていきます。憑依していた音無天神が体を離れ、巫女が正気に戻る変化も見どころのひとつ。
最初から最後まで神楽のリズムと様式で舞う「惣神楽（総神楽）」は、金春流では「巻絹」のみです。

※ English commentary is available on the performance at the theatre.

舞囃子 芦刈 Maibayashi Ashikari
金春流

シテ　井上貴覚
笛　平野史夏
小鼓　鳥山直也
大鼓　亀井洋佑
地謡　本田光洋　辻井八郎　山中一馬　柴山暁　岩間啓一郎

舞囃子 昭君 Maibayashi Shokun
金春流

シテ　本田布由樹
笛　小野寺竜一
小鼓　清水和音
大鼓　柿原孝則
太鼓　大川典良
地謡　本田光洋　山井綱雄　本田芳樹　柴山暁　岩間啓一郎

舞囃子 乱 Maibayashi Midare
金剛流

シテ　金剛龍謹
笛　槻宅聡
小鼓　住駒匡彦
大鼓　國川純
太鼓　小寺真佐人
地謡　種田道一　宇高竜成　坂本立津朗　湯川稜　見越英明

一調 鳥追舟 Ichō Toriobune

謡　坂口貴信
小鼓　飯田清一

――休憩――

狂言 石神 Kyogen Ishigami
大蔵流

シテ　山本則重
アド　山本則秀
アド　山本則孝
笛　小野寺竜一
小鼓　住駒充彦

能 巻絹 Noh Makiginu
金春流

シテ　中村昌弘
ツレ　雨宮悠大
ワキ　大日方寛
アイ　山本泰太郎
笛　栗林祐輔
小鼓　鵜澤洋太郎
大鼓　大倉正之助
太鼓　金春惣右衛門
地謡　金春憲和　髙橋忍　辻井八郎　山井綱雄　井上貴覚　本田芳樹　本田布由樹　岩間啓一郎
後見　金春安明　山中一馬

（16時50分終演予定）

2026年
12月9日（水）13時30分開演（12時30分開場）国立能楽堂 National Noh Theatre (Sendagaya, Tokyo)
東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1

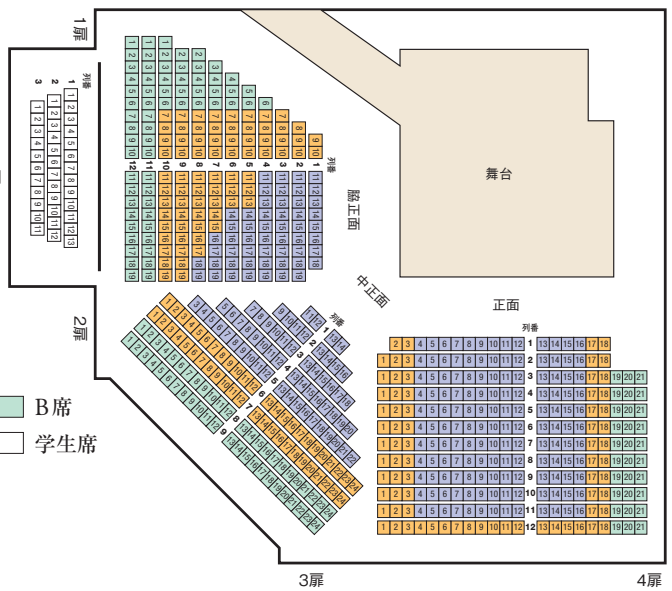
チケット料金（全席指定・税込）Price / by person *Tickets at the door : cash only

S席9,000円　A席7,000円　B席5,000円
GB（学生席）2,000円（学生席は要学生証ご提示）
※未就学児の入場はご遠慮いただいております

一般販売開始 10月9日（金）10時

〔お申込み〕観劇サイト「カンフェティ」チケットセンター
https://www.confetti-web.com/@/hayashika
電話 050-3092-0051（平日10:00～17:00有人対応）

〔お問い合わせ〕東京能楽囃子科協議会 電話 03-6804-3114
Eメール hayasika.kyougikai@gmail.com
公式サイト https://nohgaku-hayashika.com/
※諸事情により演目、出演者等が変更になる場合がございます。



主催 一般社団法人 東京能楽囃子科協議会
助成 文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））
独立行政法人日本芸術文化振興会
公益信託 稲生雅治・惠子能楽振興基金　公益財団法人 花王財団